

産業構造審議会産業技術環境分科会産業環境対策小委員会（第12回）

議事要旨

日時：令和6年2月20日（火曜日）15時00分～17時00分

場所：経済産業省会議室（別館2階227共用会議室）（オンライン併用）

出席者

東海委員長、大下委員、尾崎委員、梶井委員、梶原委員、嶋田委員、鈴木委員、竹内浩士委員、竹内純子委員、富田委員、永田委員、長谷川委員、町野委員、光成委員、守富委員

一般社団法人日本鉄鋼連盟 西川様、富田様

普通鋼電炉工業会 鈴木様

一般社団法人日本鑄鍛鋼会 武田様

一般社団法人日本医療機器産業連合会 五十田様

一般社団法人日本医療機器テクノロジー協会 浦富様

議題

1. 揮発性有機化合物（VOC）排出抑制のための自主的取組の状況
2. 水銀要排出抑制施設の自主的取組の状況
3. 酸化エチレンに関する自主管理計画に基づく取組状況
4. 公害防止管理者制度の見直しについて
5. その他

議事概要

資料に基づき説明を行い、質疑を行った。委員からは主に次のような発言があった。

（議題1 関係）

- ・光化学オキシダントの環境省のデータは1時間値が使われているが、世界一般では8時間値が使われている。1時間値を使うとデータが変わらないため、8時間値に移行してほしい。
- ・1時間値と8時間値の問題については、環境基準が1時間値で設定されており、8時間値の方が実効的であるという議論はあるが、環境基準を変えていないため、8時間値のデータを公表できていないのが現状。
- ・BVOCの全体における貢献度の説明がなぜ難しいのかという点を次回説明してほしい。

（議題2 関係）

- ・大気排出抑制対策の各論点について、引き続き進めてほしい。石炭を使うことは水銀の観点からは気になる点であるため、IGCC等についてどのような形で適正に対応できるか検討してほしい。
- ・事業者の努力で基準が達成されていることが多いと理解したが、基準値の見直しやデジタル化を見据えた計測に関する論点について、しっかりと検討をお願いしたい。

（議題3 関係）

- ・日本化学工業協会の会議体発足は大変意義のある取組。その設立動機やどのような手応えを感じているか。
- ・各業界において正確に調査がなされ、実態を把握できたと思っている。それに基づき対策が進められるということで、排出量の正確な把握や発生源への適切な対策を取っていただくようお願いしたい。

- ・VOC 含め削減は順調に進捗している一方で、下げ止まりも見られる。経産省の取組として、科学的な解明をしつつ、どれくらいコストをかければどれくらい減るのかということが重要であり、どれくらいコストをかけるのかという判断が必要になるため、事務局には力を入れて取り組んでほしい。

(議題 4 関係)

- ・デジタル化はあくまで手段であるため、周辺環境における公害防止など、法の目的が損なわれないような検討をお願いしたい。また、次回の検討時には、公害防止主任管理者の兼務により増加する業務負荷への対処も論点に加えてほしい。
- ・全体的に人材不足であり、これから加速度的に進むことは目に見えている。デジタルによって、同じ効果を省力化しながら効率をあげることが重要だが、今のままでは行き詰まることが見えている以上、今後、変化にチャレンジすることを積極的に検討いただきたい。
- ・立入検査にデジタル技術を活用できるものは積極的に使うべき。どのようなデジタル技術が活用可能かという議論はあったか。

(議題 5 関連)

- ・企業では、気候変動、生物多様性や CE など環境サステナビリティが重要な経営課題になっている。汚染管理と CO2 削減を両立できるような政策的な調和を図ってほしい。
- ・日本の土壌汚染対策は諸外国よりも基準が厳しいところもある。また、PFAS なども課題になっているが、過度なコストがかかる対策とならずに、汚染予防と CO2 対策が両立できるような形を環境省と議論をしてほしい。

以上

お問合せ先

産業技術環境局 環境管理推進室

電 話：03-3501-4665

FAX：03-3580-6329